

第 59 回日本神経学会学術大会

「メディカルスタッフセッション」にご参加下さいました皆様へ

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

此の度は、第 59 回日本神経学会学術大会にご参加いただき、誠に有難うございました。

幸い連日好天にも恵まれ、お蔭さまで 6,302 名という多くの皆様にご参加いただきまして、無事終了することができました。これもひとえに皆様のご協力とご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

北海道大学神経内科は 1987 年に診療科として開設されて以来、今年で 32 年目を迎えました。初代教授である田代邦雄先生が第 43 回総会を主催されたのが 2002 年であり、後任として小生が教室を引き継いだのが 2003 年です。このたび、第 59 回学術大会を担当させて頂きましたことは大変に名誉なことであり、教室と同門を代表して皆様にお礼を申し上げます。主幹校として学会事務局ならびに運営事務局から支援を得て、企画、立案、運営に至るまで円滑に作業を進めることができました。プログラム編成に際しては、学術委員や教育委員会および関連の皆様にも多大な御支援を頂きました。学術大会国際化の大方針に沿って、シンポジウム、口演、ポスターなど 30% 程度を英語とさせて頂きました。会場はホテルロイトン札幌、さっぽろ芸文館、札幌市教育文化会館の三施設に分散したことから、参加者の皆様には移動にご負担をおかけしました。札幌芸文館は 2018 年 3 月で閉館の予定でしたが、札幌市の配慮により、この学術大会のために 9 月まで閉館を延長して頂きました。このように皆様からたくさんの御支援を頂き、学術大会を開催・運営することができました。改めて紙面を借りて感謝致します。

神経疾患には介護度が高いものも多く、長期間の療養を要するものが多いこと、また難治性疾患の多いこと等、他の診療科とは異なった特徴があります。神経疾患医療においては、病気に精通した多職種連携からなるチーム医療が欠かせません。そこで、本学術大会におきましては、従来の学術大会の方針を踏襲して、メディカルスタッフの皆様から演題を募集すると共に、教育セミナーを企画させて頂きました。座長を設けての実施となりましたポスターセッションには 120 題と多数の応募をいただきました。なかには多数の優れた演題が見受けられました。特に優秀な 8 演題は口演とさせて頂きました。ポスター発表は座長の司会の基に発表と討論をして頂きました。皆様最終日にメディカルスタッフ教育セミナーを 2 会場で開催し多くの皆様に参加していただきました。振り返ってみて、地域毎の医療環境を考慮した、地域のニーズに即した企画とすることでさらに水準の高い目標を目指す時期に来ているように思います。

第 59 回学術大会の全日程が無事終了しましたことを報告させて頂きます。大会を盛り上げていただきました皆様に重ねて心より御礼を申し上げます。この大会が日本神経学会の一層の発展に繋がることを祈念いたします。

以上、略儀ながら御礼のご挨拶とさせていただきます。皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

謹白



平成 30 年 6 月 1 日
第 59 回日本神経学会学術大会
大会長 佐々木 秀直
北海道大学大学院医学研究院
神経病態学分野神経内科学 特任教授

【大会長校事務局】

北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野神経内科学

【学会事務局】

日本神経学会事務局

【運営事務局】

第 59 回日本神経学会学術大会運営事務局（株式会社コンベンションリンクージ）